

文章を書くことが苦手な児童の作文指導(3)

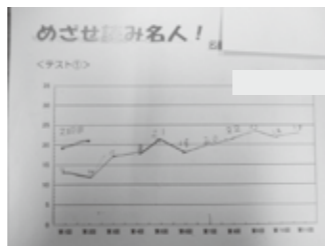
アセスメントの実施

指導開始時期の「読み」の様子(通級指導学級の様子から)

1 読むこと

○OMIM-PMの結果から特殊音節の読み書きや単語の意味理解が当該学年の到達程度に至っていないことが分かった。

○音読では、語尾や文末の読み間違いがある。



2 書くこと

○文字を書くことや文章を書くことに対する苦手意識がある。

○特殊音節を含む言葉を正しく書くことが難しい。

3 話すこと

○相手に分かりやすく話すことが難しい。

○順序立てて話すことが苦手である。

指導目標と指導の手だて(個別指導計画の作成)

連携型個別指導計画及び短期個別指導計画から

在籍学級の指導目標(長期目標)

必要なことを書いたり、相手に分かりやすく話したりすることができるようになる。

通級指導学級での指導目標

長期目標 作文を書く。

短期目標 自分の思いを入れた作文を書く。(400字程度)

自己評価表の活用

「短期個別指導計画」を基に対象児童と話し合いながら学習計画を立て、指導目標を対象児童と共有することで、意欲をもたせる。

○今日のめあてや、各活動のめあてをしっかりと意識させる。

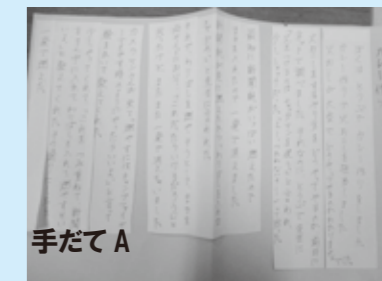
○自己評価することで達成感を味わわせ、次への意欲につなげる。

一書くことに負担感のある児童への指導

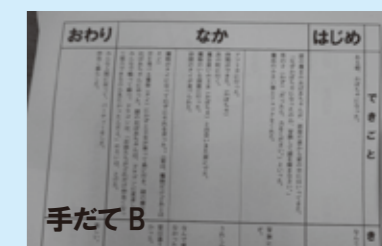
指導の手だて及び指導内容・方法

◆長い作文を書くので、通級指導学級の教員は、以下の手だてを講じました。

手だてA 児童が話すことを聞き取り短冊状の紙にメモ(聞き取りメモ)を取る。

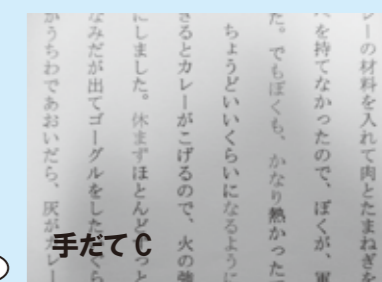


手だてB 文章の「はじめ、なか、おわり」が表になったワークシートを作り、「聞き取りメモ」を基にパソコンに入力する。



手だてC パソコンに入力したものに対象児童が加筆する。

手だての効果 対象児童が文章構成を意識しやすくなり、書くことへの負担感を感じずに作文することができた。



●こうした手だてを講じることで、対象児童はいくつかの文章を完成させることができました。

●在籍校の宿泊行事でカレーライスを作ったことをつづった作文では、火加減を調節するなど、班行動の中で対象児童が自分の役割に取り組む様子を、気持ちが相手に伝わるように書くことができました。

●作文を褒めてもらったことで、書くことへの負担感が軽減されてきました。



指導の成果

★対象児童の書いた文章を読んだ在籍学級の担任が、対象児童を褒めてくれたことにより、児童の学習意欲が更に高まりました。



在籍学級の担任

●当該児童が、友達と協力してカレーライスを作っている様子や、感じたことが伝わってきました。

◆当該児童が意欲的に作文に取り組むようになったことから、在籍学級でも年度末のまとめの作文指導に生かしていくことになりました。